

＜骨造成あるある小ネタ集＞ ～明日に繋がるトラブルプレゼンテーション～



サイナスフロアエレベーショントラブル 田中 一茂 ～診断不足と術中の判断を考察する～

サイナスフロアエレベーションを行うにあたり、異常上顎洞粘膜の診断は大切になってくる。肥厚しているのか、嚢胞なのか診断を誤ると術中に慌てることになる。また嚢胞の内容物に関しても吸引、洗浄すれば大丈夫なのか、どのような判断をすべきなのかを、術前、術直後、2ヶ月後のCBCT画像を提示し考察する。アドバイスをいただき今後のトラブル回避に活かしていきたい。

略 歴

2000年 九州歯科大学 卒業
2007年 大阪府堺市南区にて開業

現在の役職及び所属学会 等

- ・大阪 SJCD
- ・COKI
- ・歯庵
- ・日本顎咬合学会 会員



山脇 将貴 オープンバリアメンブレンの失敗

オープンバリアメンブレンテクニックは数多くの報告があり、治療期間の短縮、侵襲の軽減に有効である。しかし時として期待した結果が得られない事例も存在する。今回はその失敗症例を報告する。抜歯窩にDBBMを填入しd-PTFE膜で被覆し縫合した。フィクスチャー埋入時に初期固定はほとんど得られず、最終的にフィクスチャーはインテグレーションしなかった。本プレゼンテーションにおいては失敗の原因と今後の注意事項の共有を目標とする。

略 歴

1999年 岡山大学歯学部 卒業
2010年 倉敷市山脇歯科医院承継

現在の役職及び所属学会 等

- ・大阪 SJCD
- ・日本口腔インプラント学会
- ・日本臨床歯周病学会
- ・OJ
- ・日本接着歯学会

memo

次ページにつづく ▶



ソケットリフトでシュナイダー膜を
奥田 裕太 パーフォレーションしたケースに対するリカバリー

全顎的な治療を希望された38歳の患者さんに対して歯根破折を起こしている左上6番に対してリッジプリザーションを行った後に、ソケットリフトとGBRを併用しインプラント治療を行った症例とトラブルを皆様に提示し諸先生方にご意見を頂きたいと考えている。

略 歴

- 2008年 朝日大学歯学部卒業
- 2009年 大阪歯科大学 総合診療科 研修医
- 2010年 スマイルデンタルクリニック勤務
- 2013年 医療法人おくだ歯科医院
歯周病・インプラントセンター勤務

現在の役職及び所属学会 等

- ・JSCO ジェネラルメンバー ・SAFE 正会員
- ・ENの会アクティブメンバー
- ・AAP 会員 ・臨床歯周病学会会員
- ・日本歯内療法学会会員
- ・日本顕微鏡歯科学会会員



ブロック骨が消えた・・・ブロック骨移植の一症例
中井 政徳

骨造成法で代表的なものにブロック骨移植と顆粒状自家骨や骨補填材料を使用したGBR法がある。各々の造成法について数々の研究が行われ、また臨床応用がなされているが治療法の選択についてはコンセンサスが未だなく、各術者の判断に委ねられているのが現状である。今回提示する「ブロック骨移植がフェイルした後GBRでリカバーしたケース」を通じ、フェイルの原因と各造成法の優位性などについてディスカッションできれば幸いである。

略 歴

- 1994年 大阪歯科大学卒
- 1998年 大阪歯科大学 生理学講座
- 2009年 大阪歯科大学 口腔インプラント科
- 2015年 医療法人佑詢会 C&Cナカイデンタルクリニック

現在の役職及び所属学会 等

- ・日本顎咬合学会 認定医
- ・日本口腔インプラント学会 専修医
- ・OSI Study Club 大阪支部副会長
- ・SAFE 正会員



下顎臼歯部GBRにおけるトラブル症例
高津 充雄

GBRの手術は様々なトラブルを起こす危険性を伴う。トラブルを未然に防ぐこと、そしてトラブルが起きた場合もその対処を行う知識・技術が必要である。今回、咬合再構成患者において下顎臼歯部にStagedアプローチでGBRを行うも、オトガイ神経麻痺と術部の感染が発生し、そのフォローとしてメンブレンの除去、洗浄、投薬を行った症例を提示する。このトラブルをこれからの臨床に活かすため、皆様からご指導を賜りたい。

略 歴

- 2011年 朝日大学歯学部卒業
- 2012年 大阪歯科大学附属病院 口腔外科第1科臨床研修
- 2012年 医療法人幸恵会 カツベ歯科クリニック就職
- 2017年 医療法人幸恵会 カツベ歯科クリニック退職
- 2018年 こうつ歯科クリニック開院予定(吹田市)

現在の役職及び所属学会 等

- ・大阪SJCD 会員
- ・COKI 会員
- ・i6 メンバー
- ・N.H.K. 所属
- ・日本顎咬合学会会員 認定医